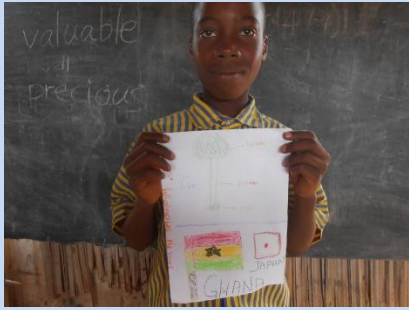
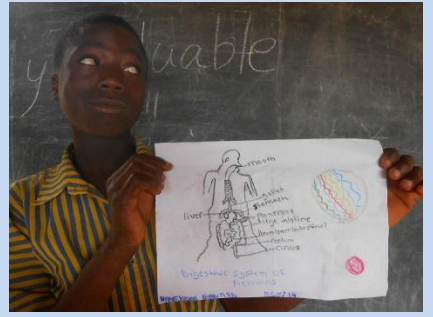


ガーナでお絵描き
くれよん プロジェクト 41号

今夏の一時帰国の際に、小学校で授業をさせていただく予定でいます。そこで、日本とガーナの小学生の“大切なもの”はどんなものなのか？比べてみるのも面白いかもしれないと思い、クラス6の生徒に“My Precious”と題して絵を描いてもらいました。このお題では、かつて“あなたのためにつなものは何ですか”というタイトルで、NPO法人宇宙船地球号の事務局長である山本敏晴氏から依頼を受けて絵を描いてもらったことがあります。3年半前のこととなります。“バックナンバー Vol.14 Vol. 15 Vol.17をご参照ください”この時のアフィエ村の子どもたちは、水浴びをするバケツや、フフと作るための臼と杵、憧れである自動車を描きました。今回も、きつと憧れであるきれいな自動車を描いたりするのだろうかと思いましたが、意味予想はしていませんが、まったく“My Precious”とは関係ない物を書き始めたのでした。ある生徒は、教科書に乗っている人体の構図。ある生徒は、教室にいた先生に言われるまま花を描き、ある生徒は、その先生を描くのです。久しぶりのくれよんを使った授業そして、真っ白い紙にたくさんの色を使って描ける喜び。仕方ないのかもしれませんが、“私は、わた

しのたいせつなものを描くように……って言ったのに“そんな思いが頭の中をぐるぐる過ります。けれども、子どもたちが、実に楽しそうに描いているのを見て改めて自分が今ここで活動している意味を思い知りました。”子どもたちのこうした掛け替えのないたいせつ体験がたいせつなんだ“ということですよ。”わたしのたいせつなものは、人体構造図であっても、先生の絵であっても花であってもなんでもいいのです。そうして、今回のテーマに無理やりこぎつけるものではないけれど、ガーナ国旗を描く子どもが多かったことは、ガーナという国が大好きで大切という思いから描くのだからだと思います。以前よりお絵かきの時には、ガーナの国旗と日本の国旗を描く子どもがいることをこの通信でもお伝えしてきました。一時帰国の小学校での授業、どのような内容にするかは現段階で決められませんが、お絵かきの時には、必ずと言っていいほど、国旗を描く子どもがいることを伝えたいと思いました。





協賛 ぺんてる株式会社様24色クレヨン

報告 2015年5月31日

今回、授業を行なったクラスは日本でいうと小学6年生のクラスです。このクラスは年齢が幅広く12歳から17歳までの生徒がいます。日本の年齢に合わせると、中学2年生から高校2年生も在籍していることになりす。そうした少し歳が上になる生徒もうれしそうにくれよんを握りしめて絵を描いている姿は、見ている私までもがとてもうれしくなります。そして「わたしのたいせつなもの」を何故描かない！描けない！とさつきまで苛立っていた自分を反省させる時間でもありました。つつい型にはめたがる私は、たいせつな何かを忘れてしまっていたのかもしれない。そうしたことを教えてくれるのが、ほかならぬ子どもたちなのです。かけがえのない貴重な体験。大切な時間。これからもくれよんを使った授業をしていきたいと思えました。

